

日英二国間セミナー

衝撃的被災と長期的減退への計画対応

—地域復興における冗長性の役割— 日英におけるレジリエンスの計画

Planning Responses to 'Shock' and 'Slow-Burn' Events:
The Role of Redundancy in Regional Resilience
- Planning for Resilience in the UK and Japan-【日時】 **2013年3月26日** (火)【場所】 **早稲田大学22号館202教室**

東京都新宿区西早稲田 1-7-14 地図はこちら

早稲田大学北門の外に近傍する建物で、キャンパス内ではありませんのでご注意ください。
都電荒川線「早稲田」駅より徒歩2分
高田馬場(東口)駅よりバス学02系統・早大正門行「西早稲田」バス停下車徒歩5分
東京メトロ東西線「早稲田」駅より徒歩10分。

【参加費】 無料

【言語】 日本語と英語 (同時通訳)



【狙い】

「衝撃的被災」(shock=地震・津波・竜巻・重要施設の壊滅・急止等)と「長期的打撃」(slow-burn=人口減少・産業減退など)の2重の影響を被った脆弱な地域のレジリエンス(復興)はいかにあるべきか。地方自治体そのものが被災する場合さえあり、自立的な対応能力は限界に直面する。

復興を推進するためには内外のあらゆる知恵や余力を動員することが求められる。フロントラインに立つ地域社会・コミュニティの潜在的な社会力、およびボランティア・NPO・専門家組織・大学等、友好自治体や海外援助等の支援ネットワークのバックアップ力を最大限に活用することが鍵となる。

社会の「リダンダンシー(冗長性)」を適応可能なキャパシティに替え、最大限にその能力を活用して復興を前進させる復元力のある新たな社会システム、計画対応、復興政策のあり方について日本とイギリスの国際比較から展望する。

【プログラム】

10:00pm

- あいさつ/本セミナーの論点整理 早田 宰 (早稲田大学社会科学総合学術院教授)
- 災害回復力と冗長性 ピーター・リー (バーミンガム大学上級講師)

10:45pm

- 基調講演 東日本大震災後の支援ネットワークと政府の後方支援 辻元 清美 (衆議院議員・元国土交通副大臣・内閣総理大臣補佐官)
- 基調報告 東北復興一被災地支援の県・国の取り組み— 阪口 進一 (復興庁統括官付参事官)

質疑・休憩

13:00pm【セッション1】被災地復興の現状と課題

進行: 斎藤 博 (大東文化大学環境創造学部講師)

- 変化を主導するコミュニティの補完的役割—ロングブリッジ地区のケース— イーフォ・ジョーンズ (バーミンガム市役所局長)
- 福島と地域再生 鈴木 浩 (福島大学行政政策学類名誉教授)
- 気仙沼の復興 阿部 俊彦 (早稲田大学都市・地域研究所客員主任研究員)

14:00 pm【セッション2】新たな復興パラダイムの視点

進行: 斎藤 博 (大東文化大学環境創造学部講師)

- ガバナンスとコミュニティ計画 サイモン・ベンバートン (バーミンガム大学上級講師)
- コミュニティ主導の地域再生からの教訓 コンラッド・パーク (コミュニティ再生アドバイザー)
- 地域再生とコミュニティ 早田 宰 (早稲田大学社会科学総合学術院教授)
- 日本の今後の課題 卯月 盛夫 (早稲田大学社会科学総合学術院教授)

15:30 pm【セッション3】復興キャパシティのある社会の構想

進行: 田村 和寿 (桐蔭横浜大学スポーツ健康科学部講師)

- 環境共生と住宅政策 オレグ・ゴルバチエコフ (バーミンガム大学講師)
- 復興と環境ガバナンス 坪郷 實 (早稲田大学社会科学総合学術院教授)
- 計画システムの課題 土方 正夫 (早稲田大学社会科学総合学術院教授)

ディスカッション・質疑

あいさつ 内田 勝一 (早稲田大学副総長)

(17:15 pm 閉会)

【申し込み】 <http://jsps0326.sblo.jp> (WEB フォーマットから入力)【申し込み期限】 3月23日(土) 【問い合わせ】 jsps0326@googlegroups.com (事務局)